

和光会会報No. 59

—菱電サービス（菱サ）～三菱電機ビルテクノサービス（MELTEC）本社OB会—

◆ 会員の趣味のコーナー

今回から第17回和光会総会の展示作品を3回に分けてご紹介いたします。

今回もこれらを始めた時期(年数)・動機、作品を制作しての喜び(感動)、苦労したこと、「他に取り組んでいる趣味」などを含めて紹介いたします。

なお、出展出来なかった方の作品・趣味についても出来るだけ順次ご紹介をしていく予定です。

◆ 陶芸(4点)

…… (2019-06) —金山 幸雄さんから投稿頂きました—



展示作品と金山幸雄さん

現在私は横浜本牧三溪園に隣接する横浜陶芸センターで作陶スペースを借りて作陶し、焼成をお願いして陶芸を楽しんでおります。今年5月の中旬に横浜「港のみえる丘公園」の傍にある山手111番館で陶芸仲間と共に作品展を開催しました。時季的に「横浜ローズウィーク」の期間と重なり、公園内に咲き誇るバラを鑑賞されに來られた方々が山手111番館にも大勢來館され、大変盛況の中で開催することができました。今回のOB会ではその時に出品した作品を中心に展示することに致しました。

(展示スペースが限られている関係で6点ほど寄せ合って展示いたしました。)

① 御所車型香炉(兼ランプシェード)

以前鎌倉彫の作品の中に御所車を掘った作品があり、非常に魅了させられました。この御所車を陶芸作品として表現できないか工夫して作陶してみました。

当初は香炉としての仕様を考えましたが、香炉の他にランプシェードとしても使えるように穴を空けてみました。また、毎年11月の文化の日に合わせた本牧陶芸祭で、龍をあしらった作品が好評だったこ



ともあり、この御所車についても龍をあしらってみました。当初は龍が御所車を引くイメージで作ろうとしたのですが、強度面と安定性に難があり、天井部分に龍をあしらってみました。

② 四角堂型香炉(兼ランプシェード)

昨年出品した六角堂のランプシェードに続き。コンパクトサイズの四角堂ランプシェードを作ってみました。苦労した点は建物の周りの廊下や手摺りが焼成の段階で変形したり。折損したりするのを防ぐよう接続部分に注意しました。



③ 編籠型香炉(兼ランプシェード)



球体の上半分を香炉もしくはランプシェードとして使えるように作りました。

この作品に関しては龍をあしらう等の細工はせずに、上蓋は竹細工で籠を編むイメージで作りました。球体下部は空洞にして。中皿に香又はランプを置けるようにしています。

等間隔に六角形の穴を空けるのにいつも苦労します。

④ 刺身皿(北斎画)

白色の刺身皿では面白みがないので、以前小布施にある北斎館を訪ねた時に感銘を受けた北斎の「鮭に鼠」という新巻鮭に白鼠がかじりついている絵を模して絵皿としても使えるように描いてみました。

焼成前の段階では色的に満足しても、焼きあがると変色してしまうので、思った色を出すのに苦労します。今回は比較的鮭の皮と身の色そして目の色が良く出たと思います。



⑤ 龍紋様酒器セット・急須型箸置き

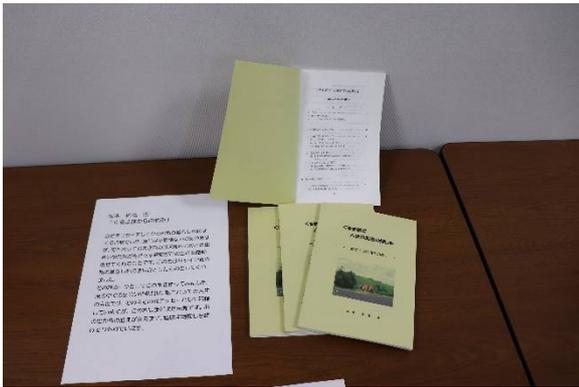
黒泥のピアマグとぐい呑み2ヶそれと急須型の箸置き2ヶを展示しました。ピアマグとぐい呑みの一つは黒泥という黒色の土を使って内部はなまこ釉をかけ、外側は釉を掛けずに焼締めています。もう一つのぐい呑みは半磁という白色に近い土を使ってチタンと織部という釉薬をかけ分けて焼いています。織部の緑色が特徴です。



色々箸置きを作る中で、遊び心でとても小さな急須を作ってみました。毎年11月の文化の日に横浜本牧で陶芸祭を開催しているのですが、その際に私も展示販売していますが、この急須が来客された方々から大変面白がられて、たくさん買っていただきました。そのため手元にはあまり残っていないのですが、今回展示させていただきました。



◆ 著書 …… (2019-06) —山本 拓弘さんから投稿頂きました—
「くるま旅で人生の宝もの探しを」 A5判 140P



会社をリタイアしてから私の暮らしの核はくるま旅でした。旅には不思議な力がありますが、何と言っても大きなのは未知のものとの



展示作品と山本拓弘さん

の出会いや発見がもたらす感動が己の生命を躍動させてくれることです。この力はリタイア後の私の暮らしを生き活きとしたものとしてくれました。

その証の一つとしてこの本を作ってみました。旅の中での出会いや発見は、私にとっての人生の宝物です。その宝ものをエッセーとして記録していますが、この本はまだ未完了です。あの世からの迎えが来るまで、私は宝物探しを続けるつもりです。



◆ 九戸村の不思議な樹 …… (2019-09) —山本 拓弘さんから投稿頂きました—

考えてみれば、もう大分前から栗の季節である。栗が好物で、楽しみにしているのだが、何しろ高価なので、思いっきり食べた！という実感を味わうのはなかなか難しい。茨城県は全国一の栗の生産高を誇っているけど、地元においてもその恵みに出会えるのはそう簡単ではない。ピカピカ光っている高品質の栗は値が張るので、いつも買うのは実の小さなものばかりである。しかし、栗の味というのは、実のところは小粒の方が美味しいような気がする。負け惜しみではなく、本当にそう思っている。

住んでいる守谷市近くのつくば市は、栗の名産地の一つでもある。幸いなことに守谷に越して来てからは、毎年栗を納得の行くまで味わっている。このシーズンになると、つくば市の地元のJAの売り場には栗がふんだんに並べられている。その中で一番小粒のものを選んで買い（何しろ値段は1ネットで50粒以上は入っているのが120円とか150円で手に入るのだから、嬉しい）、家に持ち帰って茹でて食べている。

子どもの頃は、郷里の我が家の周辺には、どこの家でも敷地や畑などに何本かの栗の木を植えていたし、近くの山に行けば、柴栗と呼ばれる実の小さな栗の木が幾らでもあり、食べるのが面倒なので殆ど誰も採らないような状態だった。自分はその小さい栗が好きで、マメに拾って、茹でたものに糸を通して干してカチ栗というのを作ったりしたのを思い出す。当時から栗というのは小さい実の方が美味しいのだという刷り込みがなされており、それは今でも変わっていない。

もう今年食べる分は既に腹の中に入ってしまった感じがするが、昨日TVで栗作りのことが放映されているのを見て、再びつくば市内のJAに買いに行こうかなと思った。それであれこれ栗のことに思いをめぐらしているうちに、ふと九戸村のことを思い出したのである。(相変わらず前置きが長い)

何年か前に岩手県から青森県にかけて点在する「戸(へ)」のつく市町村を巡る、「へのへの旅」というのを思い立ち、その練習訪問をしたことがある。練習というのは、軽い気持ちでの下見ということで、まだ本番の旅ではないということなのだ。自分は旅への妙なこだわりがあり、何かしらテーマを用意しておくのが旅の重要な要件なのだと思う。へのへの旅というのは、一戸町・二戸市・三戸町・五戸町・六戸町・七戸町・八戸市・九戸村・遠野市の九つの市町村を指している。何故なのか、この中に四戸という自治体は無い。これらの市町村は南部藩が治世に当たる頃なのか、それ以前からなのか、行政区分単位としてそのように呼ばれたらしい。その地にそれぞれの戸数の家しかなかったということではない。南部藩の馬は有名で、その馬を飼うエリアの分けだだったという説もある。詳しいことはもっとよく調べないと何ともいえないが、あまり資料が無いのが残念である。

九戸村には、へのへの旅の練習以外でも何度か訪れている。この村にある道の駅が気に入っており、東北の春旅には欠かせない場所なのである。へのへのの中で唯一村というのが東北らしさを醸しているという気に入り方なのかもしれない。

九戸村には不思議な植物が存在している。東北の治世の歴史といえば、太平洋側ではやはり南部氏が中心だったと思う。その南部藩の中心地は、かつて三戸だったようだが、その殿様が盛岡に移転してからは、地元の人以外では三戸の誇りに気づく人は少ないのではないかと。また、南部藩の内情にからむ政争として、九戸の乱と呼ばれる九戸政實(まさざね)の反乱(という呼び方が正しいかどうかは判らない)が有名だが、6万の豊臣秀次の大軍を向こうに回して、5千の軍勢で戦ったその意気というのは、賞讃に値するのではないかと。その九戸政實が戦った九戸城(福岡城)というのは、九戸村ではなく現在では二戸市に属している。九戸村には政實を祀る神社や墓地などがあるばかりである。その昔と現在とではその境界の線引きが少し違っているようだ。旅をしてあれこれ訪ねると、歴史のややこしさに戸惑う。

又また脱線してしまった。話を栗に戻そう。九戸村には、枝垂れ栗という変てこりんな栗の木がある。枝垂れという特性を持つ樹木は結構あるけど、栗の木の枝垂れというのは、それまで見たことも聞いたこともなかった。それが九戸村を獲物を探してうろついていた時に、ふとその案内板が目についた。というのも何だか鳥の巣のように枝を広げた変な木があったので、何だろうと野次馬精神を発揮して、車を止め近づいて見たら、それが栗の木と知って驚いたのだった。そのときはまだ春も浅い時期だったので、葉も若葉を出すにいたっておらず、実に変な感じがしたのである。栗というので、木の下を見たら少しばかり穂(いかり)が落ちていたので、やっぱりこれは栗の木なのだと思えて実感し、不思議を実感したのである。

枝垂れ栗については、その後調べてみると九戸村だけではなく全国に結構たくさんあるらしく、長野県の辰野町にはしだれ栗森林公園というのがあると聞き、是非一度行ってみたいと思っている。しかし最初に見たときは、世の中には不思議



議なものがあるものだと、本当に驚いたのだった。あの栗の木には、今年はどのような実がどれくらい生ったのだろうか。栗のことを思いながらその興味は膨らむばかりである。今は、直ぐに飛んでゆけるほどの自由も無く、ただ想像するばかりで残念である。

もう一つついでにだけ、九戸村には見たこともない松の大木があったのを思い出す。千本松と呼ばれるその松の木は、枝が真っ直ぐに上に伸びているのである。普通松の木といえば、榎(トド)松やエゾ松のような種類はイメージの中には入らず、赤松や黒松のくねり曲がった枝振りをイメージするのではないかと思う。ところがこの松は幹を見ると赤松のようなのだが、枝の方はまさに千本と呼ばれるに相応しいほどピッシリとあるのが全部上に向かって伸びているのである。その姿から別名を箒(ほうき)松とも呼ぶとか。不思議な木である。



短い滞在だったので、この2本の木しか印象に残っていないが、九戸村にはその他にも変わった何かが存在しているような気がしてならない。樹木のみならず折爪岳の山麓から中腹あたりには小型の蛍の姫ホタルというのが棲息しているとも聞く。岩手県にはまだまだ神秘的なものが隠れ潜んでいるような気がする。今年の栗の食べ納めのことを考えているうちに、いつの間にか想いは九戸村の不思議へと飛んでしまったのだった。

(2009年、へのへの旅の下見の旅から～10年前の出来事です)

◆ 事務局より

- ・ 会員趣味のコーナーでは第17回和光会総会の展示作品の中から、常連となりました金山幸雄さんの陶芸作品と、久し振りに総会に参加され作品を展示された山本拓弘さんの著書の2人の方の作品をご紹介します。

和光会会報No.34より「くるま旅くらし心得帖」の山本拓弘さんよりくるま旅について投稿いただいておりますが、そのくるま旅くらしについてまとめられたものです。当日数冊ご持参いただき、ご希望の方にプレゼントいたしました。

旅のエッセーについては下記HPの中から何点か選ばれて掲載されております。その中には和光会会報に投稿していただいたものも掲載されております。

なお、「くるま旅で人生の宝もの探しを」ご覧になりたい方は事務局にありますのでご連絡いただければお貸しいたします。

- ・ 「くるま旅くらし心得帖」の山本拓弘氏よりくるま旅について投稿いただいておりますが、今回は2009年の東北の旅から九戸村の不思議な樹について投稿いただきました。なお、山本拓弘氏の「くるま旅くらし」の最近の様子は下記ブログに載っておりますので是非ご覧ください。

<http://blog.goo.ne.jp/vacotsu8855>

「山本馬骨」で検索しても可能です。

- ・ 和光会の連絡・問い合わせ窓口について
会社(人事部)の全面的な支援により、OB会事務作業(会員との連絡・通知、1194・カレンダー

の送付等)を人事部の委託によりMTBにお手伝いいただいております、MTBの担当は総務・人事支援部(部長:田辺 直樹)で変わりありませんが、第17期より連絡・問い合わせ窓口は下記のとおり一部変更になっております。

担当:井手 信彰、佐々木 敏行、石川 文美代

電話:03-3803-8865(代表)

FAX:03-3803-8875

E-mail:meltec-0B-wakokai@mtb.ssg.meltec.co.jp

住所変更等通常の連絡・問い合わせはMTBの上記和光会担当か、和光会事務局(寺門)で済むと思いますが、会社の総務人事部の窓口は次の方です。

担当:関根 崇(総務人事部副部長)

TEL:03-5810-5300(代表)

TEL:03-5810-5398(ダイヤルイン)

E-mail:sekine.takashi@meltec.co.jp

- ・2019年度会費納入対象の方は2003、2006、2009、2012、2015及び2017年に入会された方々になります。対象者宛に先回「1194」「和光会会報」送付時振込用紙を同封いたしましたので、会費「2,000円(1年分)」の振り込みが未だの方は次の口座宛振り込み賜りたくよろしくお願ひ申し上げます。会報No.57でご連絡したように、対象者宛「1194」「和光会会報」送付時振込用紙を同封いたしましたでしたが、会費「4,000円(2年分)」の振り込みが未だの方は次の口座宛振り込み賜りたくよろしくお願ひ申し上げます。

なお、振込用紙を紛失された方は事務局あてご連絡くだされば再度送付いたします。

振込先:郵便局

口座番号:00100-7

口座記号:650896

加入者名:和光会

- ・E-MAIL 会員各位へは INFORMATION をお送りしておりますが、最近不達が増えておりますので、**メールアドレスの変更時は速やかにご連絡**をお願いいたします。
- ・「和光会会報」・「1194」・カレンダーなどを会員宛送付しておりますが、宛所不在で戻ってくる場合がありますので、**転居・住所表示変更等の場合は速やかにご連絡**をお願いいたします。
- ・パソコンのある方は、会報や総会写真を下記和光会ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。**(7月よりホームページのアドレスが変わりました)**

<http://meltecwakokai.g2.xrea.com/>

皆様の日頃の活動やグループ活動などのお便り・投稿をよろしくお願ひいたします。

2019-10-7 和光会事務局 寺門 三男

029-872-4122 mitsuotera@jcom.home.ne.jp